

提言140「学びの質を高める学校経営－子供の未来を創造する学校－」

1 学習指導要領の趣旨を体現する学校づくり

学習指導要領の理念を学校全体で共有し、組織的な取組を進めることが、学校の教育力を高める上で欠かせない。

(1) 授業のねらいの明確化と共有

各授業の目的を明確化し、生徒が「何を学び、何ができるようになるか」を具体的に理解できるようにする必要がある。

教員は、授業計画を作成する際に、単元の目標を踏まえ、その授業で生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを明確に伝えることが大切である。

例えば、理科の光の反射や屈折の実験を行う際に、「光が物質の境界面でどのように進むのかを観察し、その規則性を発見する」というように、実験の目的を明確に生徒に伝える。

実験を行う前に、実験を通して何を学びたいのか、どのような結果が予想されるのかを生徒に考えさせ、実験に対する見通しをもたせることで、生徒が学ぶ意義を実感できる環境を整えていく。

また、教員間で授業の意図や成果を共有・検証し、継続的な授業の質的向上を図ることが大切である。授業後に授業記録や生徒の振り返りを共有し、授業の良かった点や改善点を話し合うなど、授業の質を高めていきたい。

(2) 振り返りを活用した学びの深化

学習後の振り返りは、生徒が自分の学びを客観的に見つめ直し、次の学習につなげるための重要なプロセスである。

「今日学んだこと」「疑問に思ったこと」「今後取り組みたいこと」などをICTの活用で記録・保存し活用することも考えられる。継続的な記録からの自らの変容や気づきなど、振り返りの記録を次の学びに活用する視点が重要である。

振り返りを通して、生徒はメタ認知能力を高め、自己調整学習を促進し、学びを深化させることが期待される。

教員には、振り返りの意義を生徒に丁寧に伝え、実践をサポートすることが求められる。

2 教育課程実施上の課題への対応

より質の高い教育を実践するためには、教育課程実施上の課題に学校全体で組織的に取り組む必要がある。

(1) 単元を見通した指導計画における学習評価

単元全体の学びの構造を明確にし、目標、指導、評価を一体化した指導計画を策定することが重要である。

例えば、単元計画書を作成し、単元の目標、各授業のねらい、学習活動、評価方法などを一覧できるようにすることが考えられる。

また、必要な評価場面を厳選し、学びを深める効果的な場面を設定する。

評価のための評価ではなく、学習を促進するための評価を実践することが求められている。ペーパーテストを行うだけでなく、授業中の発表やグループワークの様子、ポートフォリオなどを評価に含めるなど、生徒の学びの過程を多面的に評価する。

「見取り」「形成的評価」「総括的評価」のそれぞれの役割を明確にし、評価結果を分析し、指導と評価の相乗効果を高める取り組みを校内で推進することが大切である。

形成的評価を生徒の学習改善に結び付ける仕組みを構築したい。

(2) 学習評価の改善

学習評価は、生徒の学習を促進し、教員の指導を改善するための重要なツールである。

評価の観点を明確にし、生徒の学習状況を的確に把握する。評価項目を具体的に設定し、生徒は何ができていて、何ができていないのかを明確に把握できるようにする必要がある。

例えば、ルーブリックを作成し、評価項目ごとに生徒の達成度を段階的に評価できるようにすることが考えられる。

また、小テストの結果を基に理解が不十分な生徒に対して補習を行ったり、授業中に生徒同士で教え合う活動を取り入れたりすることで、生徒の理解を深めることが期待できる。

(3) ICTおよび生成AIの効果的な活用

ICTは、教育活動において必要不可欠なツールとなっている。生徒が自ら調べ、考える活動を授業に取り入れることで主体的な学びの促進や生成AIを適切に活用することで、教育の質的向上と教員の負担軽減も期待されている。

しかしながら、チャットをめぐる課題については考慮する必要がある。

生成AIは常に進化し利便性が高まっているが、生徒が安易にチャットに頼り、自ら考えなくなるリスクを回避することが求められる。

情報モラルの観点からも、生成AIの適切な活用方法を生徒に指導していくことが求められる。

3 学校の裁量と校長のマネジメント

学校は、それぞれの地域や生徒の実情に応じて、独自の教育活動を展開する裁量をもっている。校長は、その裁量を最大限に活かし、学校の教育力を高めるマネジメントを推進していくことが期待されている。

(1) 学校の役割と目標の明確化

学校は、地域や保護者との連携を深め、学校の方向性を共有する必要がある。

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）などを活用し、地域や保護者の意見を学校運営に反映させていくことが大切である。

学校の教育目標を明確にし、教職員全員で共有することで、組織としての一体感を醸成していくことが重要である。

また、学校評価を活用し教育活動の成果を検証するとともに、課題を明確にして改善に繋げていくことが重要であり、学校評価の在り方も工夫していく必要がある。

(2) 学校裁量を活かした創造的な教育活動

各校の特性を活かし、柔軟かつ創造的な教育課程を編成することが求められる。

例えば、地域資源を最大限に活用した教育活動、学校独自の特色ある教育プログラムの開発などがあり、1単位時間の在り方も含め地域企業との連携や地域の文化財を題材にした探究学習を展開したりすることなどが考えられる。

(3) 校長のリーダーシップによる組織運営

校長は、学校全体を統率し、目標達成に向けた道筋を明確に示すリーダーである。

学校の教育方針や具体的な目標を教職員に示すとともに、教育活動の進捗状況を把握し、必要に応じて指導や助言を行うことで、教職員間の協働を促進する仕組みを整え、組織としての力が最大限に発揮される組織運営の実現を目指すことが求められる。

学習指導要領の理念を実現し、生徒の資質・能力を育成するためには、校長のリーダーシップはとても大きい。

校長には、組織を牽引し、教職員が主体的に教育活動に取り組める環境を整備するとともに、常に変化する社会に対応し、これからの教育の在り方を模索し実現に向け挑戦して

いこうとする姿が期待されている。